

松帆銅鐸の歴史遺産活用

定松佳重

はじめに

平成二十七年（二〇一五）に、松帆銅鐸は南あわじ市松帆地区で採掘された砂の中から発見された。その後、調査のため、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所にお預けして、全ての銅鐸が南あわじ市に戻ってきたのは令和四年（二〇二二）であった。調査が終了してから保存処理を行うため市に戻るのには時間がかかると言われていたが、実に七年後であった。その間、松帆銅鐸を忘れられないようにするために、市民と協働で様々なイベント等を行った。それが松帆銅鐸の歴史遺産活用の始まりであった。

一、郷土愛の醸成

では、どのように松帆銅鐸を覚えてもらおう

か。まずは認知度を上げ、市民に松帆銅鐸へ愛着を持つてもらおう。発見当初は新聞やテレビを賑わせたので、「南あわじ市で銅鐸が出土」という情報は拡散された。しかし、それは一過性のものであり、恒常的

なものではなかった。そこで幼少期から接することで記憶に刻み込もうと考え、小学生を対象にした遊びを入口として、銅鐸引いては地域の歴史文化遺産を知っ



図1 どうたくデコ

てもらおう。そして、家庭内で子どもや孫が話せば、歴史に興味のない親や祖父母も話を聞き、それが続けば、大人も地域の歴史を知っていくことになるのである。また、当市では、高校卒業後は進学のため島外に出て行ってしまいう子どもたちが多い。そういう人たちに生まれ育った地を思う心を育み、ふるさとに誇りを持つてもらおうという考えに至った。人によってそれぞれポイントは異なるだろうが、その一つが歴史文化遺産になってほしいと思い、小さなころから親しめるよう、子どもが体験・興味を持つワークショップメニューを考え、勾玉づくり・缶バッジ・ミニチュア鋳造・レジンや、外部講師に依頼してどうたくデコ・パステルアート・バスボム・せっけんづくりを行っている。夏休みはほぼ毎日南あわじ市滝川記念美術館玉青館でワークショップを開催しており、来館した小学生に特別展を見学することでわかるクイズを実施し、あまり市民にも知られていなかった玉青館を、またその玉青館には松帆銅鐸があることを子どもたちに周知できた。

二、まちづくりカフェを開催

子どもを対象にした活動とは別に、まちを元気にしたい！こんなことを形にしたい！と思っている市民から様々なアイディアをいただこうと、「南あわじまちづくりカフェ」を開催した。松帆銅鐸を始めとした南あわじ市や淡路島の歴史やルーツにスポットを当て、その魅力を市内外や世界に発信し、どのように地域経済の活性化に繋げるか。

歴史の堅いイメージにとらわれず、農業、漁業、地場産業、商工業、飲食業、サービス業、個人など色々なジャンルの人の「やりたいこと、したいこと」を楽しむ



図2 ふろしき

く掛け合わせて、新しい企画を実践していくことを目的とした。そこからSDGsである銅鐸柄ふるしきや、地場産業である瓦で作ったコースターや銅鐸形の花瓶などの製作、すでに商品化されていた黒米おほぎを古代米おほぎとしてPRしていった。また、瓦で作った箸置きなどのカプセルガチャも人気である。

まちづくりカフェを開催していく中で、商品を開発しても販売する場所や販路がないとの意見もあり、宿泊施設等に販路開発も行い、現在は玉青館や地域の拠点バスターミナルの陸の港西淡で販売している。

まちづくりカフェの発表の場として、古代体験フェスティバルを開催し、開発商品の販売やワークショップに好評をいただいた。また、市内和菓子業者に銅鐸の焼き印を提供し、商品に使用して銅鐸をPRしていただいた。

三、歴史を活かしたまちづくり実行委員会の設立

まちづくりカフェ開催と同時進行で、「歴史を

活かしたまちづくり実行委員会」を立ち上げた。これは、まちづくりカフェで発案された企画を動かす実働部隊で、委員は当初まちづくりカフェに参加している人たちが構成したが、現在は淡路島島内で歴史やイベントに興味がある人が参加している。まちづくりカフェから発案されたグッズの製作や、古代体験フェスティバルなどのイベントを主催し、外部イベントにも参加した。設立から七年を迎えた

現在は、松帆銅鐸だけでなく様々な歴史文化遺産の講座や、「二億年前の地球のしわ」とも言われるさや状褶曲しゅうきよくを含む南あわじの地学を学ぶ講座を兵庫県立人と自然の博物館と共催した。歴史講座のフィールドワークは、毎回キャンセル



図3 御朱印

待ちが出るほどの人気である。前述の玉青館でのワークショップも、外部講師は歴まちから派遣していただいている。また、近年人気の御朱印の歴史文化遺産バージョンを製作し、南あわじ市のふるさと納税の返礼品として出品し、今後委員会が自走するための財源となっている。御朱印に使用している和紙は、淡路島の特産品である玉ねぎの皮が入っており、市内の福祉作業所「ういんず・きらら」で入所者が一枚一枚手漉きで作っている。イベントでも限定御朱印を配布するので、その都度発注し、入所者の仕事へのモチベーションにも一役買っている。

おわりに

歴史文化遺産の活用にはさまざまな課題がある。維持・保全、観光利用のバランス、歴史・文化の伝承（教育・啓発活動）である。また、市民協働の面では、地域のリーダーシップの育成、ネットワークの構築、スキル・知識の継続的な獲得、持続可能な収益化などである。

維持・保全は文化財保護の基本になるが、そこに観光資源としての利用を両立させることが求められ、適切なバランスを考慮しなくてはならない。市民協働は活用に重要な役割を果たすが、途切れず活動を続けることが非常に難しい。様々な団体が高齢化・後継者不足で活動を休止せざるおえない状況になっていることからわかる。また、歴史文化遺産の活用は長期的な視点で考える必要があるため、経済的な持続可能性や地域の発展に貢献することを重視することも必要である。

どちらにしても歴史文化遺産の活用は、まずは文化財を理解することが重要であり、それには教育や啓発活動を積極的に行うことが最重要課題となる。その上で、行政は地域の特性やニーズに合わせた戦略的なアプローチを取りながら、歴史文化遺産の活用を支える。また、地域の人々の協力と連携が不可欠であるために、積極的なコミュニケーションや参画の機会を提供することも重要である。